日刊 動労千葉

87. 7. 24

No. 2610

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

革マル松崎、またもや『世界日報』（勝共連合機関紙）に登場

『国旗（日の丸）を掲げないのはおかしい』7/14付

戦犯天皇の片棒を担ぎ 戦争へ突き進む革マル松崎打倒

七月一日の鉄労脱退、十六日の解散、「復縁」で鉄道労連の危機が底なし沼のごとく深まる中で、七月十四日、動労革マル松崎は、またもや右翼・勝共連合機関紙『世界日報』に登場し「国旗（日の丸）を掲げないのはおかしい」と、ついに日の丸を掲げた労働運動＝産業報国会への道を率先してすすめることを自ら語った。戦犯天皇の片棒を担ぎ、戦争に協力する動労革マル松崎を絶対許すな。

戦犯天皇の旗振り役

『世界日報』記者に土足で目黒の動力車会館に踏み込まれた革マル松崎は、「一問一答」の中で「アメリカやヨーロッパに行くと、組合の委員長室に必ず国旗があるが、なぜ日本にはないんだ。おかしいじゃないか」と、ついに日の丸を掲げて天皇制を賛美し、天皇制のもとでの労働組合＝産業報国会を創りあげることを天皇・中曽根に誓ったのである。

第二次大戦で日本人三〇〇万、アジア人民五〇〇〇万を虐殺し、天皇制護持のために沖縄をアメリカに売り渡して戦後四〇年経つ今も生きのびている戦犯天皇のために「日の丸」を振ろうというのである。どうして許せるだろうか。

天皇制のもとで 動労千葉、国労を解体

さらに、「そこまでいかないとね、JRというものは非常にみっともないものになっちゃうんですよ」などと、動労革マルー鉄道労連はもとより、「新会社」に働くすべての国鉄労働者に天皇制を強要し、〝戦争を担う鉄道事業〟を創りあげようとしているのだ。

とくに、動労千葉、国労が「新会社」で闘いぬいているという現実の前に革マル松崎は心底恐怖し、その解体のためにとうとう天皇制の懐に飛び込んだのだ。

そしてこのことは、五月三日、神戸で天皇制右翼が朝日新聞記者を襲ったように、今度は動労革マルが、動労千葉や国労に天皇の名を借り、「日の丸」をふりかざして襲いかかってくるということなのだ。

「日の丸」ごと 動労革マル粉砕へ

しかし、われわれ国鉄労働者の怒りを「日の丸」や天皇制で圧殺することはできない。逆に、「日の丸」を掲げなければ生き延びられない動労革マルこそ大ピンチなのだ。

出向攻撃をストライキで粉砕し、その過程で動労革マルを「日の丸」ごと粉砕してやろうではないか。

世界日報　The Sekai Nippo　昭和62年(1987年) 7月14日(火曜日)

世界日報

発行所 ㊐世界日報社

日の丸掲揚に前向き

生産性向上に動労努力

スト自粛・労使協力を堅持

鉄道労連の今後の路線について、「当然ストライキ自粛」を改めて強調するとともに、「（ストは）しない」というのが望ましい

目標は「黒字企業」

最大の使命は会社の公約を果たすことだと思います。ですからイデオロギーでどうとかこうとか、バカバカしいことはいっさい自分の所ではないです。

東京地方の各組合のみなさんと話したんですが、ヨーロッパとかアメリカに行くと、組合の委員長室に必ず国旗があるが、なぜ日本にはないんだ。おかしいじゃないか。つまり労働運動がやたらと革新革新と言いますけれども、国旗を掲げないのが革新なのかと、会社の旗も掲げてないんですよね。やっぱりおかしいねと、そのあたりを、だけど、そこまでいかないとね、JRというのは非常にみっともないものになっちゃうんですよ」

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！